

(1)【第1号報告】スポーツ推進事業の進捗について

【事務局】

(配付資料により説明。説明概要は以下のとおり)

長崎市ではスポーツ基本法に則り、市民がスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことを目指し、市民が日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会を確保するため、「する・みる・支えるスポーツの振興」の視点から事業を実施することにより、スポーツ・レクリエーションの振興を図ることとしている。

「する」スポーツの振興については、「スポーツをする機会の提供」として、はじめようスポーツ体験教室や市民体育・レクリエーション祭、長崎ベイサイドマラソンなどの各種スポーツ大会を開催している。

また、「スポーツをする場所の提供」として、市営体育施設の貸出、また、学校体育施設の開放等を行っている。

次に、「みる」スポーツの振興については、「プロスポーツ観戦事業」として、令和6年度は、スタジアムシティの開業を踏まえ、V・ファーレン長崎及び長崎ヴェルカのホームゲームへの観戦を拡大して実施し、市民の応援気運の醸成を図るとともに、「みる」スポーツを通じた、スポーツへの関心を高めるきっかけをつくっている。

次に、「支える」スポーツの振興については、「競技力の向上」として、選手の強化やジュニア層の育成のために、各競技団体が実施する強化事業等に補助を行っている。

【委員】

イベントの説明があったが、障害者が参加できるイベントがあるのか。パラリンピックの競技である車いすバスケットやボッチャなどをカテゴリーに分けるなどして、障害者も参加できるようにしていただきたい。

【事務局】

障害者が参加できるイベントとして、市民体育・レクリエーションにおいて、車いすバドミントンを行っている。また、長崎ベイサイドマラソンについては、一般と障害者を区分していないが、走れる方はどなたでも参加できることとなっている。

また、スポーツ表彰においては、優秀な成績を収めた方を表彰しているが、障害者の方も表彰している。現状では、障害者に特化した事業は実施していない。

【委員】

競技ではないが、障害者が楽しめるレクリエーションがある。そのイベントには、ボッチャやニュースポーツなどを実施しており、スポーツを始めるきっかけにつなげている。

【事務局】

ご紹介があったように、市民体育・レクリエーション祭のレクリエーションの部において、ボッチャなどを実施していただいている。

【委員】

長崎ベイサイドマラソンのハーフコースについては、女神大橋を登らないといけないため、車いすの方には過酷である。車いすの方が参加できるよう、コースの見直しを検討できないのか。

【会長】

障害者団体として、様々な意見があると思うが、企画化して、行政にお願いしたらどうかと思う。

【委員】

長崎ベイサイドマラソンの参加について、そこまで参加者が伸びていないように感じる。参加者を増やすのが目標であれば、県外参加者用として駐車場や宿泊先の確保について、良いアイデアを出して、参加者を増やしていくべきではないか。

【事務局】

長崎ベイサイドマラソンの参加者については、令和6年度が4,274人で、このうちハーフマラソンが約2,000人である。県外参加者は1割程度であるが、現時点では駐車場不足の声はあがっていない。

また、来年度は長崎平和ハーフマラソンを開催予定である。フルマラソンと比較すると大幅な参加の増は見込んでいないため、駐車場対策については、そこまで考える必要はないと考えている。

令和2年度開催時のフルマラソンの時は、駐車場不足が予想されたため、いくつかの市の公共施設を臨時駐車場として活用する計画があった。

その時は、1万人の参加であったが、ハーフマラソンとして開催する場合、参加人数を5,000人や1万人を募集しても、3,000人くらいで止まってしまう傾向にある。フルマラソンの場合、全国各地からランナーが集まるため、1万人の定員であるが、ハーフマラソンでは、そこまで集まらない状況である。

参加者の要望や警察等の関係機関からの指摘があれば検討する必要があるが、現在のキャパで対応できるものと考えている。

【委員】

保健体育などのスポーツに特化して学んでいる学生もいるが、ボランティアも含めて、スポーツの運営面を支えることにより、協力できる部分があると考えている。

【委員】

運動部のサークルの大会参加などにより、コラボレーションできればと考えている。

【委員】

プロスポーツ観戦事業について、保護者ではなく、例えば、児童養護施設の職員が複数の子どもたちを引率して観戦するような企画はないのか。

【事務局】

現在は、保護者が申し込む形になっている。1人の引率者が複数の子どもたちと一緒に観戦するのであれば、制度的な見直しが必要となる。

【委員】

松山のラグビー・サッカー場については、かなり古く傷んでいるようだが、改修する予定はないのか。

【事務局】

現在、平和公園のスポーツ施設の再配置については、陸上競技場、プール、庭球場、弓道場及びソフトボール場が対象となっており、ラグビー・サッカー場は、再配置の対象となっていない。

人工芝が経年劣化により状態が良くないことや、ラインが曲がっているなどの声を聞くことがある。所管が土木部となるが、現時点では、ラグビー・サッカー場の改修のことは聞いていない。

【会長】

本件は、先日も長崎新聞に掲載されていたが、長崎市と利用者の方向性が一致していないと感じた。ラグビー協会やサッカー協会とも話し合う場があればよいと思う。

行政が前に出て、関係者の声を聞きながら、進めていただきたい。

【委員】

スポーツ少年団の登録は、どのような状況か。

また、クラブチームやスポーツ少年団、小中学校の部活動チームによる対抗戦について、意思疎通がうまくいっていないのではないのか。

【事務局】

スポーツ少年団の登録は、令和元年度時点で95団あったのが、令和5年度は80団まで減少しており、また団員と指導者の人数では、令和元年度時点で1,880人いたのが、令和5年度は約1,600人となっており、減少傾向である。

また、クラブチームや小中学校の部活動チームによる対抗戦については、競技で異なる。

例えば、サッカーの場合、クラブチームや小中学校の部活動チームによる対抗戦を合同で実施しているが、競技によっては、別々で実施している。特に話題になっているのが、中体連主催の大会であるが、中学校の部活動を所管しているところであるため、課外クラブしか入れないこととなっている。

また、それぞれの競技団体主催の同じ世代で行っているものもあり、競技団体で異なっている。

【会長】

中学校部活動の地域移行について、どの程度進んでいるのか。

いろんな意見を聞くが、よく反対意見を耳にする。

部活動が学校教育から離れて、地域が行うこととなるが、子どもたちや親としては、先生から直接学びたいなどの意見を聞く。

【事務局】

長崎市の方針としては、令和9年度までに、土日の完全移行を目指して進めている。

平日については、今まで通りの部活として、顧問の先生がいる状態で練習することとなるが、土日だけを地域クラブが主体となり、先生以外の指導者を配置されるのが、週末の土日の地域移行である。

土日の運営については、部活動に入っている保護者が中心となる運営協議会のようなものをつくり、会費を集めて、指導者へ謝礼金を支払うイメージである。

現状で、約10クラブできているものの、あまり進んでいない状況である。

【会長】

身近にいる監督・指導者に教えていただきたいというのは、当たり前のことであるが、指導者への謝礼や事故が起こった場合の責任などを心配されている。

そのようなことを行政が指導しながら進めていけば、当事者である子どもたちも安心するのではないかと思う。

【委員】

長崎ベイサイドマラソンは、市民にも人気があると思うが、他のはじめようスポーツ体験教室や市民体育・レクリエーション祭は初めて知ったところである。広報の仕方は、どのようにしているのか。

【事務局】

広報の仕方については、広報ながさきがメインである。それ以外にも、チラシやポスターを配布したり、学校にも情報提供している。

ちなみに、長崎ベイサイドマラソンがなぜ目立つかという点、公道を走るため、多くの皆さんに交通規制などのお知らせをする必要がある。参加者だけでなく、多くの方に開催することを広く周知している。

【委員】

運動・スポーツ実施率については、どのような集計を行っているのか。また、他の地域との比較ができているのか。

【事務局】

調査方法については、市民意識調査において、様々な分野の調査を毎年実施しており、その調査項目の中に入れていく。対象については、18歳以上を性別や年齢、居住地がばらけるように、ランダムに3,000人選んで、アンケートを送って回答いただいている。

また、他の地域との比較は行っていない。国は65%となっており、長崎市としても50%を超えるよう取り組んでいるが、徐々にしか上がっていない状況である。

【委員】

運動・スポーツ実施率については、長崎県においても数値を持っており、調査方法については、国に合わせて、対象は成人であり、週に1回実施していれば対象にしている。国と同じ調査を実施することで、国との比較ができおり、地域ごとの傾向も分かるようにしている。

長崎県の傾向としては、都市部が高く、田舎は低い数値になっている。分析としては、田舎は農業や漁業をされている方が忙しく、そもそも体を動かす仕事であるため、運動やスポーツをする機会が少ないのではないかと思う。

国は、ウォーキングも対象にしていることから、聞き方次第ではないかと思う。

【会長】

長崎大学の教育学部の学生が、長崎市内の小中学校の先生になっているため、先生方にも現状をお知らせし、連携を取りながら進めていく必要がある。

行政がある程度指導しながら進めないと、部活動の地域移行は簡単ではないと思う。

【委員】

部活動の地域移行については、教員の働き方改革もある。部活動については、先生方によっては、自分が経験したことがない部活を教えることもあり、非常に難しい状況である。

【会長】

様々なことが変化しているところであるが、主役は子どもたちである。
先生方におかれては、大変であるが、よろしくをお願いしたい。

【委員】

部活動の現状については、学生たちにも話しているところであるが、関わっていきたいと考えている学生が多いと感じている。

【会長】

平和マラソンについては、フルマラソンからハーフマラソンになったが、ハーフマラソンでは参加者が集まらないのか。

【事務局】

フルマラソンの場合は、全国各地のランナーが参加されるが、ハーフマラソンの場合は、わざわざ全国各地からは集まらない傾向がある。フルマラソンであれば1万人、ハーフマラソンであれば3,000人が長崎で開催する場合の限界と考えている。

【会長】

参加申込みもそれぐらいか。

【事務局】

長崎ベイサイドマラソンのハーフについては、1,900人ぐらいの定員で募集しており、当日不参加を考慮し、少し多めに募るが、2,000人ぐらいしか集まらない状況である。

【会長】

フルマラソンとハーフマラソンで差があるのか。

【事務局】

フルマラソンについては、ランナーにとっては、特別なものがあると考えている。

【委員】

長崎市では、DXを進められていると思うが、スポーツ関連の計画はないのか。

【事務局】

長崎市では、体育館やグラウンド、夜間の学校体育館などの公共施設を利用する場合は、予約システムを導入しており、スマホで予約できることとなっている。

今後進めたいと考えているのが、夜の学校体育館を借りる場合、現在は管理人が鍵の開閉をお願いしているが、スマートロックという暗証番号を押して鍵の開閉をしているものがあるため、予約された方に暗証番号をお知らせして、利用していただくことを将来的に考えている。

(2)【第2号報告】 長崎平和ハーフマラソンについて

【事務局】

(配付資料により説明。説明概要は以下のとおり)

長崎平和マラソンの経緯については、被爆75周年の節目を迎える令和2年度に、平和をテーマにフルマラソン大会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、取組みを一旦中断し、被爆80周年である令和7年度での開催を新たな目標として検討を進めることとしていた。

令和2年度以降、様々な観点から検討を行ってきたが、この間、市内における施設面の環境が整ってきたことで、様々な行事等の開催が可能となってきたこと、また、その一方で、開催経費の増が避けられない状況となってきたことなどの変化が生じている。

そのような社会状況や、これまでの経緯や令和2年度開催予定時の大会の趣旨等も鑑み、令和2年度に開催を予定していたフルマラソンではなく、平和をテーマとするハーフマラソンを被爆80周年記念事業として位置づけ、平和に関する内容を充実させて開催することを実行委員会で決定した。

概要については、被爆80周年記念事業として、平和に関する内容を充実させたハーフマラソンを開催し、被爆地長崎から平和のメッセージを広く発信するものであり、「大会名」を「長崎平和マラソン」から「長崎平和ハーフマラソン」に変更する。

また、開催時期は、令和7年秋から翌年3月までの期間で調整中であり、コース設定は、令和2年度のコース及び長崎ベイサイドマラソンのコースを参考に、平和公園周辺のコースを含めて調整中である。

また、ゲストを通じての平和のアピールやメイン会場における平和に関するイベントの開催等を検討することとしている。

【会長】

ハーフマラソンになることで、目的を達しなくならないようにしていただきたい。大学には、参加の案内等は送っているのか。

【事務局】

大学については、ボランティアスタッフとして参加していただいている。また、陸上競技協会経由となるが、大会の審判関係をお願いしている。

【委員】

スタート・ゴールは、平和公園を予定しているのか。

車いすでも参加できるコースにできればと考えている。その場合、一般と一緒に走るのではなく、時間をずらして走ることはできないのかと考えている。

どうしても女神大橋の坂は、車いすで登るには無理があるため、平和公園などの平らなコースにするなど、配慮していただきたい。

【事務局】

まだスタート・ゴールを含めて、コースは決まっていない。

しかしながら、現在の長崎ベイサイドマラソンは、女神大橋を走ることが一番のメインとなっているため、女神大橋は外せないと考えている。

ハーフ以外の種目も実施する予定としているが、距離が短くなってもいいか。

【委員】

車いすの場合、フィールド3,000mはある。

【事務局】

ハーフのコースを検討した後に、短い距離のコースを検討する予定であるため、頂いた意見を踏まえて、検討していきたい。

【会長】

電車通りを走る案はないのか。

【事務局】

確かに応援は多くなると思うが、地域の方や交通事業者などの関係機関と丁寧に協議をする必要がある。現在も協議を進めているところであり、できる限り早い時期にコースを決定したいと考えている。

【会長】

関係機関と連携して、進めていただきたい。

【委員】

平和マラソンは、競技として実施するのか。

全国の大会で、様々な大学生ランナーが出場されているニュースを見るが、そのようなイメージで開催するのであれば、女神大橋のような急な坂があるコースはいかがかなと考えている。

競技として開催するのか、レクリエーションとして開催するのか、ハッキリと分ける必要がある。

【会長】

レクリエーションとして位置付けて、交通規制して走らせることはすべきではないと考えている。

競技として実施しないと重みがないのではないかと。

【事務局】

フルマラソンやハーフマラソンで開催する場合、日本陸連が検定する公認コースにするのかを決める必要があるが、本大会については、公認コースにはしない。また、長崎ベイサイドマラソンも公認コースではない。

しかしながら、距離やタイムを測ったうえで、上位の方には表彰も行うこととしており、競技として実施する。令和2年開催時のフルマラソンの時は、女神大橋もコースに含まれていたが、日本陸連の公認をいただいていたため、高低差はあまり関係ないのではないかと考えている。

【会長】

長崎平和ハーフマラソンという大会名であることから、長崎にふさわしい大会にしていきたい。

(3) その他 特になし

【会長】

他に意見がなければ、全ての議事を終了する。